

# 「殺生石」物語考

物語の概略 ⑩

那須野に隠れ潜んだ金毛丸尾白面の狐は、遠近の民家や往来の旅人を襲い、人々は老若男女の区別無く喰われ、或いは喰われずに隠され、行方知れずになった。宗重の家来や婦女子にさえ失せる者があり、那須宗重は、那須家の面目にかけて、再び大規模な狩りを催した。が、山奥の大穴に、夥しい人骨と、かみ殺されたまま山積みになされた死体を、むなしく、発見するのみであった。

宗重は、事の重大さに、自ら上京しようと決心する。が、その上京を阻止するかのようになり、那須家に不思議が起こった。宗重の妻が突然二人となり、夫の宗重にも、どちらがどちらか、その虚実を見分けることはできない。しかし、宗重は庶民の歎きを優先し、あえて、京都へ向かう。

関白忠実公の朝議において、安倍泰親は、朝廷に伝来する宝鏡のみが、宗重夫人の真偽を明

らかにするものだと言し、宗重にそれが貸し与えられる。

宗重一行が宝鏡を護りながら、勢多の橋を渡り終えた時である。後方から、騎馬の一团が追いかけて来た。先頭には安倍泰親がいる。泰親は、那須宗重に、朝廷の事情が変わって宝鏡をいつたんに持ち帰ると説明した。しかし、この言を怪しんだ宗重は、離京の際泰親がくれた山鳥の尾の護符を取りだし、それを輪にして彼らの姿を見た。すると、輪の中の泰親や従者たちの顔は皆狐顔である。宗重は、即座に、剣を泰親に浴びせた。すると、化生の泰親は、その切っ先をかわし、一団は何処へともなく消え去った。

この事件を京都へ注進するとともに、宗重は急ぎ、那須の地に帰郷した。館ではすでに、虚の妻は消え失せており、実の妻のみが彼を出迎える。

筆者 前那須歴史探訪館 館長

齊藤 宏壽 先生(湯本在住)

今月のひとこと

天球儀を皆で囲みし理科室は  
どの辺りだろう廃校跡地

## かつこう

イチゴには、ビタミンC、カルシウム、葉酸、カリウム、マグネシウム、食物繊維、鉄分など栄養素がたくさん含まれています。なつおとめの収穫時期は7月頃から10月頃まで。夏秋にもおいしいイチゴが食べられるなんて嬉しいですね。いよいよ夏本番。なつおとめを食べて、暑い夏を乗り切りましょう。⑧

高校生のための食育授業の取材。24時間いつでも簡単に食べたいものが手に入る時代。主食・主菜・副菜をバランス良く食べる：わかつてはいても、時間がたつと、面倒でついつい：同世代の子を持つ親としても耳が痛く、自分や家族の食生活を振り返り反省しました。そして、自分が子どもの頃、理想的な食事が食卓に並んでいたことを思い出し、親の有り難みと食育の大切さを改めて感じました。⑨

ようやく本格的な夏到来。先日取材に行った黒田原の夏まつりも篠突く雨あがりの夏空の下、盛会に開催された。実行委員や町内外の出店者、子ども連れの家族、高校生やお年寄り。そこには地域の人々の笑顔をつなぐコミュニティがあった。暑い中、準備や交通整理を行う裏方たちそれぞれが役割を果たすことで地域行事が実現している。これは地域づくりにつながる重要な過程であると感じた。⑩

こんにちは

## 赤ちゃん



齋藤  
いちか  
一華ちゃん  
(小深堀)

平成30年  
11月28日生

父 憲章さん 母 美香さん

一華ちゃんは…

おじいちゃんのことを大好き！いつもありがとう♡

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。詳しくは総務課秘書広報係(☎72-6901)まで。

## 町の世帯と人口

(7月1日現在・住民基本台帳)  
( )の数字は前月比

・世帯数 10,338世帯 (-17)  
・人口 25,149人 (-16)  
男 12,494人(+7) 女 12,655人(-23)

## あなたの「声」をきかせてください

地域の身近な情報や、広報「那須」の感想・ご意見をお待ちしています。お名前と連絡先とともに下記までお寄せください。